ライフコースから考える子どもの日本語教育
－中国帰国児童としての日本語学習経験とキャリア－

大橋　春美（長野県飯田市立山本小学校）

１．はじめに　～これまでのキャリアパス～

1970 年（　0 歳）中国遼寧省沈陽市に生まれる
　　父は中国残留日本人、母は中国人
1978 年（　8 歳）長野県下伊那郡豊丘村へ家族全員で永住帰国
1979 年（　9 歳）長野県下伊那郡豊丘村南小学校へ編入
　　日本語学級で約 1 年 3 ヵ月間学ぶ
　　その後、2 学年下げて原学級へ
1990 年（20 歳）大学の英米文学科に入学
1994 年（24 歳）大学卒業。長野県公立中学校英語教諭に採用
2004 年（34 歳）教職を続けながら、通信教育で中国文学を学ぶ（3 年間）
2007 年（37 歳）中国北京師範大学教育学院へ留学
2011 年（41 歳）長野県飯田市立山本小学校　現在に至る

２．日本語学習

２．１　日本語学級での学習

２．１．１　帰国～帰国３ヵ月後（筆者：8 歳）

帰国後、家族 6 人（両親、18 歳・15 歳・13 歳の 3 人の兄、8 歳の筆者）村の小学校に特設された日本語学級で約２ヵ月学んだ。担任は、定年退職の後、再雇用となった音楽専科の先生。学習内容は、ひらがな、カタカナ、数の数え方、単語、日常会話、日本語の歌、学校生活について、日本の作法、地域見学、買い物実習など。家族と一緒だったため、不安なく学校生活を送ることができた。

２．１．２　帰国３ヵ月後～帰国１年後（筆者：9 歳）

兄妹４人、本語学級で学ぶ。担任は、新規採用の国語の先生。学習内容は、単語の意味、漢字の読み書き、音読、作文、日本の生活習慣など。学校生活全般は日本語で、兄妹間では中国語で会話をすることが多かった。長兄はいつもイライラしていて怖かったため、
早く原級に入りたいと少しずつ思うようになった。

２．２　地域での学習

家族全員で約２ヵ月間、先に帰国した残留婦人宅で週１回約１時間日本語を学んだ。最初の１、２回はテキストを音読したが、ほとんど雑談で終わってしまうことが多々あった。

２．３　小学校時代（原級）（筆者：10～13 歳）

学年を２年繰り下げて、３年生に編入した。この時は既に日本語の日常会話はほとんど困らなかった。しかし、国語の教科書本文の意味がわからず、音読は、ひらがなやカタカナの発声の正確さに注意力を注がれてしまい、内容理解まで意識が及ばなかった。また、輪読の時などは、逆算して自分の

読む箇所を事前に練習するため、全く他人の音読を聞くことができない状態だった。

２．４　中学校時代（筆者：14 歳～16 歳）

ほとんど日本語で不便に感じるはなかった。定期テストの内容もほぼ理解できたが、国語で初見の長文読解は全く点数が採れなかった。そのため高校入試が危ぶまれた。

３．アイデンティティ・クライシスと日本語学習

日本への帰国を果たした私たち家族の同一目標は、他の多くの帰国者と同様、一日も早く日本語や日本文化・習慣を身に付けること。これは「日本人」として日本社会で生活し、生きていくためには、必要不可欠なことだと感じた。

日本語を学ぶ意義は、本当の日本人になるためだった。日本語を日本人（ネイティブ）と同じようにきれいな発音で話せることが本当の日本人になるための必要条件だと筆者は考えていた。

日本語の上達と相反して、いつしか中国的な発想や行動パターンを「悪いもの」として捉えるようになっていった。そして、高校入学を機に自己を封印し、周囲に中国出身であることを隠し通すことを誓った。

４．進路決定

高校卒業後の進路決定で大きな壁にぶつかった。英語の教師になりたいという夢を抱いていたが、具体的にどのような大学や学部に進んでよいのか、どのような入試方法があるかなど、情報を得る方法がわからなかった。また、ロールモデルの不在や、家族以外の帰国者との接点がなかったため、自分の進路決定が本当に自分に適したものなのか、不安であった。

５．自分探し

教師として初めて赴任した中学校に帰国者３世の A 君が転入し、A 君との出会いを通してカミングアウトすることができた。それから、いつしかまた中国に滞在し、「自分の中の中国を探したい」「自分の中の中国を深めたい」という思いに駆られるようになった。このことが後の中国留学へと繋がることとなったのである。

６．おわりに

子どもの日本語教育は、単なる言語教育に留まらないのは言うまでもない。上記に述べた著者のライフコースが、今後の子どもの日本語教育を取り巻く環境をより豊かにし、多くの日本語を母語としない子どもたちの自己実現の一助となることができればと願っている。

【参考文献】

大橋春美（2011）「文化間移動とキャリア形成―中国帰国者二世という経験から―」『異文化間教育』第 33 号，pp.15-27